

鹿ヶ谷法然院の御詠歌（常念調）

曾 我 晃 也 作曲

♩ = 50 ~ 60



○ × × ○ × × ○ × ×
 [詠頭] これーを み ん — — [斉唱] おり お り



○ × × ○ × × ○ × × ○ ○
 — ご と に — おもい で — て なむあみ—だぶと



○ × × ○ × × ○ × × × ○ ×
 なむ あ み だ —ぶ と — つ ね に つねに



○ × × × ○ × × ○ ×
 と — — — な え — — よ —

山城の国 ^{ししがたに}鹿ヶ谷 法然院

これを見む おりおりごとに 思ひでて 南無阿弥陀仏と つねになへよ
(法然上人御作)

お歌は、十二箇条の念仏往生に関する問いに対して、法然上人が慈悲深くていねい
にお導き下さった問答形式の文章の末尾につけられた付属勸奨のお歌です。

『十二箇条問答』より

◇罪業は石のように重くとも、本願の船に乗ってしまえば、生死の迷いの海に沈むことなく、
必ず往生します。自分の罪の重さを思って本願の勝れた力を疑ってはなりません。

◇人の心はつねに名声や利益を求めて濁っていますが、念仏のマニ珠を投げ入れると心の水
は自然と清くなり往生ができます。これは念仏の力です。心が荒れる時も仏力を頼みま
しょう。

◇毎夜寝るごとに臨終の思いで十念し、いつも念仏を忘れないようにしなさい。

大意 この問答を見るたびごとに、折にふれ事にふれて、私が伝えたみ仏の大慈悲を思い出
して、南無阿弥陀仏と常にお念仏を称えなさいよ。

ポイント注意

- 半拍休止から立ち上がる音のアクセントはしっかり。
- 4拍子の「つねに」と、2拍子の「つねに」のアクセントの違いに注意。